【水の作文大賞】

水が教えてくれたこと

嘉島町立嘉島中学校　三年　北村　愛希穂

嘉島町は、「水の郷」と呼ばれるほど、水豊かな町です。地下水を利用しているため、学校の蛇口をひねると、キンキンに冷えた美味しい水が出てきます。休み時間になると、

「おいしい。」

と言う声が聞こえ、部活で汗をかいたときは、パチャパチャと顔を洗う音が聞こえていました。

しかし、熊本地震で、ライフラインが止まり、水が出なくなりました。風呂、トイレなど、私たちの日常生活にとって、水は、必要不可欠な存在だったと強く感じました。

また、避難所では救援物資や、給水車による水の配布をしていました。水をもらうために長い列ができていて、私は、家族と一緒にその列に並びました。やっと順番が来て、水をもらったのですが、思っていた以上に量が少なくて、足りるのか不安になりました。

しかし、私たちのように困っている人々に水が届くといいなと思いました。

また、避難所でボランティアをしている地域の方々を見て、とても元気がでました。物資を渡すときには、一人ひとりに、

「頑張って。」

と声をかけていました。その言葉を聞いて、心が温かくなったのを今でも覚えています。

私が、通っている嘉島中学校でも、「立ち上がろう嘉島町、負けんばい嘉島中」というスローガンを作り、復興プロジェクトに取り組みました。その中の一つに、給水活動の手伝いがありました。水を配布すると、

「ありがとう。」

と言われて、とても嬉しかったです。私たちの姿を見て、地域の方々を少しでも元気づけることができたらと、一生懸命、活動に取り組みました。

給水活動を通して思ったことがあります。それは、水が、地域の方々との絆を深めてくれたということです。給水活動に参加していなかったら、温かい人の言葉や地域の方々との関係に関わることがなかったと思います。嘉島町が、「水の郷」と呼ばれるからこそ水は、町の絆を深めることにも必要不可欠だと思いました。

私は、熊本地震で初めての経験をたくさんしました。そして、「水の大切さ」を改めて知ることができました。

蛇口をひねれば、水が出るということは、当たり前だと思って、つい無駄遣いしてしまう自分がいました。歯をみがくとき、食器を洗うときなど、出しっぱなしの水。しかし、「節水しよう」と意識するだけで、水を出しっぱなしにすることがなくなりました。

私が、大人になったときも、水豊かな町であるために、川の清掃活動など積極的に参加していこうと思います。

地震から二年、少しずつもとの嘉島町に戻っています。嘉島町には、水に関わりが深い浮島神社などの建物や行事があります。それを残していくことも、私たちに託された使命だと感じました。

いつも、私たちの生活を支えてきてくれた水、地域の絆を強くしてくれた水に感謝していかなければならないと思います。水がないことの不便さを知っている私たちが「水の大切さ」について伝えていくことも、水を守るうえで大切なことです。

水は、生命にとって必要なものです。だからこそ、水を使うときは、

「ありがとう。」

の気持ちを忘れてはいけません。このことを常に心に刻んでおけば、水を大切にする気持ちがより強くなるはずです。

私は、嘉島町がこれからも、水豊かな町であるために、節水など個々でやれることを、続けていきたいです。未来の嘉島町のために。